

第1回 精華町総合計画審議会 議事摘録

■日時・場所

- ・令和3年9月27日（月）午前10時00分～午前11時20分
- ・精華町役場庁舎 6階 審議会室

■内容

1. 開会

2. 町長あいさつ

杉浦町長 次期総合計画策定には、大きく2つの意義がある。1つ目は、学研都市建設の概成後を見据えた精華町の未来の姿を明らかにすることであり、先行する筑波研究学園都市の「産業集積」と「人口定着」を参考として、本町においても「自立のまちづくり」を目指した取り組みを進めるとともに、京阪奈新線の新祝園への延伸をも見据えたなかで本町の将来ビジョンを描いていきたい。

2つ目は、本町のまちづくりの担い手となる「人材の育成」である。総合計画策定プロセスを通じて、本町のまちづくりの担い手となる地域公共人材の発掘と育成につなげたい。同様に、次世代の中堅・若手職員の人材育成にもつなげていきたい。

学研都市精華町のまちづくりの基本となるにふさわしい計画策定となるよう、それぞれ専門的な立場などから活発な議論をお願いしたい。

3. 審議会の設置

事務局 本審議会については、「精華町総合計画審議会設置条例（以下「条例」という。）」に基づく会議であり、町長の諮問に応じて、精華町総合計画の策定に関する事項について調査及び審議を行い、町長に答申をいただくことになる。

(1) 委員の委嘱・紹介

事務局 条例の第3条第2項第3号に規定する「一般住民」に係る委員については、ワークショップ「せいかカフェ・ラボ」の参加者の中から2名を予定しており、本日は空席となっている。

○資料2「精華町総合計画審議会 委員名簿」により紹介

(2) 会長及び副会長の選出

事務局 条例第5条の規定により、委員の互選により会長と副会長を一人ずつ選出していただく。選出方法等も含め、意見があればお願いしたい。

○特に意見等がなく、事務局より会長に川勝委員を、副会長に阿部委員を提案。一同了承。

4. 議事

事務局 議事に入る前に2点連絡させていただく。

本日は、精華町議会から傍聴の申し出があったため、町議会議員5名が傍聴されている。一般の傍聴席とは別で設けている。

会議システムのリモート化について準備を進めてきており、おおよその準備は整ったが、完成形には至っていない。今後、状況に応じてリモートでの開催が可能となるように準備を進めるとともに、その際には各委員にも案内させていただく。

川勝会長 　ただ今、会長に選出いただいた。最初なので、一言ごあいさつさせていただきたい。総合計画は自治体の最上位の計画であり、精華町の将来ビジョンを描く大切な計画である。その重責を感じるとともに、高揚感もある。各委員と、まちの将来について、忌憚なく意見を交わしていきたい。

今回は、私が所属する京都府立大学の京都地域未来創造センターにもできる限りの支援をさせていただく。本学は精華キャンパスがあるなど、精華町とは以前から多くの関わりがあったが、まちづくりにそのプロセスから深く関わる機会は初めてのことである。本学が蓄積してきた知見を生かしながら、まちづくりのプロセスを一緒に作りあげていきたい。

(1) 諮問について

○条例第2条の規定に基づき、杉浦町長より「精華町次期総合計画の策定に関する事項」を審議会に諮問。

(2) 今後の進め方等について

○事務局から「資料4」～「資料6」に基づき、大まかな策定方法と今後のスケジュールなどについて説明。

川勝会長 　総合計画策定のねらいとしては、大きく2点ある。1つは、学研都市の概成後を見据えた精華町の未来の姿を明らかにすること、まちの将来ビジョンをどう描くのかという点。もう1点は、策定プロセスの中で、まちづくりを支える人材を育成することである。精華町には、地域のために頑張っている豊富な人材がいるが、まだまだ個々に活動している方も多し。そういう方を新たに発掘しながら、一緒に将来のまちの姿を描いていきたいということである。

次に、基礎調査については、7項目が予定されている。住民の方、事業者の方、活動をされている方の声を拾う方法として、「住民アンケート」「ワークショップ」「有識者ヒアリング」などがある。町、京都府立大学、アルパックの3者の連携体制により声を拾い上げ、審議会場で共有するプロセスを踏んでいきたい。

せっかく皆さんに参加いただいているので、自己紹介も兼ねて、一人ずつ策定に向けた思いなども含めてご発言いただきたい。

阿部副会長 　今回の総合計画策定では、人材の育成が特徴的であると思う。人材の育成はどの市町村にとっても重要な課題であるが、良い方策を見出すことは難しい。総合計画は一つのテーマに絞ってビジョンを創るのではなく、総合性をどう描くのが大きなポイ

ントになる。その際に、一つの領域に特化した人材を育てるのではなく、精華町の将来を考え、しっかりと関わっていけるような人のあり方について、総合計画に位置づけることは大きな挑戦であるので、議論を交わしながら良いものができればと考えている。

青井委員 私の専門は食と運動と健康であり、地域の健康づくりの役に立てればと考えている。日本全体としては高齢社会が進んできているが、精華町のまちの特性として、これから色々な世代の方が住まわれると思うので、それぞれのライフステージの特徴をつかみながら、地域の健康を1つの柱にできればと考えている。

石田委員 農業に関しても高齢化が進んでおり、若い人材を育成することが課題となっている。中には若い方もいるが、継続して農業に取り組む方はまだまだ少ない。農協としては、精華町において、農業により生計を立てていけるかも含めて、まちづくりを考えていくことができればと思う。

上杉委員 精華町の文化財保護審議会の委員をしており、文化財と景観が専門である。学研都市の概成後を見据えた精華町の未来の姿は大事なことであるが、つくば市を目指して、つくば市になるということではなく、今回の計画に精華らしさをどれだけ盛り込めるかが大事である。若い人たちが一度は町外に出ていったとしても、「精華っていないな」と思い、帰っこられるような「らしさ」が描ける総合計画になればと思う。

岡井委員 小学校4年生と2年生の子どもを持つ親であるが、精華町は緑が多くて、子どもたちが伸び伸びと遊べる場所が多いと感じている。これからを担う子どもたちの笑顔が見られる精華町にしていきたいと思っており、子どもたちの意見も取り入れながら話をしていきたいと考えている。

河合委員 学研都市は、1994年のまちびらきから30年を迎えようとしている。学研都市全体では約150社が立地し、そのうち精華・西木津地区には70社近くが立地しており、学研都市の中心地区である。また、職員・研究者数11,000人のうちの半数が精華・西木津地区に集まっており、人やノウハウなど様々な集積が進んでいる。これからは、その集積をどのように生活やまちづくりに生かしていくのが重要である。この集積を生かして価値やサービスを生み出し、それを社会課題の解決や住民生活の質の向上などに帰結しなければ、学研都市の役割を果たすことはできない。ねらいの1つ目、精華町の未来の姿を明らかにするについては、そのような観点から議論できればと考えている。

2つ目の人材育成について、まちづくりは人づくりと言われるが、この観点は非常に大切である。住民ばかりではないが、5,500人の職員・研究者がいるので、こちらの人材も活用できると思う。立地企業へのヒアリングも予定されており、働くだけではなく活動を地域にどのように生かせるのか、それは結果として企業の経済活動にもつながり、広い意味での社会貢献にもなる。立地企業で働く方の意気高揚につながる

ような観点で、ヒアリングを進めていただきたいし、学研都市推進機構としてもバックアップしていきたい。

北尾委員 文化サークルでは、会員の高齢化が進んでいる。発表会の会場として、むくのきセンターやかしのき苑を利用しているが、もう少し集まりやすいところに広いホールがあればという思いがある。また、高齢者であるため、発表会の準備も大変だったり、観客については発表者が見る形で成り立っている。若い人から高齢者まで気楽に集まることができ、もっと文化が豊かになるようなまちづくりを進めることができればと思う。

清水委員 京都府山城広域振興局では、府と各市町村が連携強化して振興に取り組む必要があるとの考えから、令和2年に組織名を地域連携・振興部へ変更した。京都府でも総合計画を策定しており、山城地域振興計画も策定しているが、数年のうちには中間年を迎え、点検が必要となる。特に、策定時にはコロナ禍を想定しておらず、当座としてポストコロナなどの戦略を作成しているが、総合計画や地域振興計画も含めて、コロナの観点を含めた点検が必要である。精華町の総合計画策定に当たっては、タイミング的にそのような観点も含めて考えればよいと思う。

勝田委員 SRGは、精華・西木津地区に立地している企業と研究機関12社の交流と親睦を深めるための協議会である。私は京セラに勤務しているが、SRGとして、また、立地企業の1つとして協力していきたい。

杉下委員 スポーツ協会では、スポーツを通して健康と地域の絆をつなげることが重要であると考えている。計画策定の目的の中では、人口定着が進むことが重要であると思う。本来ならば、色々な行事に取り組むところであるが、コロナ禍の中で多くの行事が実施できていない。

精華町の課題としては、自治会の活動が厳しい状況に置かれていることである。本会の取り組みで、絆を広げていきたいが難しい。この点については、町や議会をはじめ、様々な関係者と建設的な議論をしながら取り組んでいきたい。

また、個人としては、魅力ある精華町をつくるためには、京阪奈新線の新祝園への延伸実現に期待している。便利でなければ人は集まってこない。絵に描いた餅にならないよう具体的な動きをお願いしたい。

高橋委員 私は光台に住んでいるが、開発当初はバスなどの利便性が悪く、多くの方が車を持ち、車による送迎が当たり前になった。現在は、交通の便が良くなっているが、昔のままの車移動が続いており、外を歩くことが少なくなると、住民同士の交流の機会もなかなか生まれない。そのような状況を変えるために、また、精華町に通勤する方の利便性向上のためにも、京阪奈新線の延伸は実現して欲しい。

子どもに対するアンケートの実施は嬉しく感じた。子どもたちは、精華町をどのようなまちにしたいと思っているのか、その思いに近づくような計画を立てていかなければ

ればならないと感じた。

谷口委員 学校法人山城精華学園は精華町に光が丘幼稚園を運営して60年近くになる。学校法人の理事長と幼稚園の園長を兼務している立場から、精華町のことを考えていきたいと思っている。総合計画策定のねらいの中で、人材の育成が大きく取り上げられており、この点について考えていることを述べていきたいと思う。

計画策定の際に、悪いところを直していくという考え方があがるが、精華町には素晴らしいところがたくさんあるので、良いところは伸ばして、課題のあるところは修正していくような計画になればと考えている。

寺本委員 精華地区まちづくり協議会は、精華町に立地する企業約30社が加入する協議会である。まちが発展するためには人材育成や財政が重要である。その点で、我々が精華町の10年後の将来に対して何ができるのかを考えると、人材育成については、私の経営する東英産業では、毎年、精華町から中学生のインターンシップを受け入れている。非常にレベルの高い内容であるが、調べてみると、まちづくり協議会で受け入れているのは2社のみであった。町から、協議会に依頼があれば、より多くの企業で受け入れることができる。受け入れのルールを作って、10年先のまちの将来のために小学校・中学校からインターンシップに取り組み、精華町にどのような企業があつて、何を作っていて、どんな社会貢献をしているのかを勉強することは非常に良いことだと思う。この点について、町でも考えていただければと思う。

もう1点の財政について、精華町では、ふるさと納税の持ち出し額が多いと聞いた。多くの企業が立地しているので、協力を仰いで検討委員会などを組織し、ふるさと納税に関する検討をされてはどうかと思う。

最後に、インフラ整備や町独自の補助制度を整え、それを積極的に町が発信することによって、新たな企業の集積やベンチャーの成長などのきっかけになると思う。このような内容を総合計画に盛り込んでいただきたい。

並河委員 様々な法人や個人のお客様と普段からお付き合いがあり、地元のお客様の声を肌で感じる機会が多いので、この点を計画策定に役立てられればと思う。

また、京都銀行は、精華町支店以外に、京都府下で110店舗、他府県も合わせると170店舗あり、地方公共団体と取引のある支店も多い。本部には公務・地域連携部があり、成功事例なども情報収集して紹介できればと考えている。

古海委員 社会福祉協議会の理念から、町の福祉と高齢者をとらえて、まちづくりを考えていきたい。これから超高齢化社会に突入し、2025年には後期高齢者がピークを迎え、入院や入所したくてもできず、介護保険料も上昇する困難な高齢期を迎えることが予想されるが、福祉分野では10年ほど前から地域包括ケアのまちづくりが提案がされている。その内容は、元気な高齢者が地域のなかで活躍ができるまちである。また、自分の家が施設の部屋のように、介護や医療などの支援が必要になったときに30分以内に届くようなまちづくりも提案されている。日本全国をみても進んでいないが、

精華町はコンパクトなまちなので可能ではないかと考えている。65歳で定年を迎えた年代から、地域の中で皆でまちをつくり、老後を安心できるものにしていく福祉目線のまちづくりを総合計画に盛り込むことができればと思う。

また、新型コロナウイルス感染拡大の際に、医療的に少し弱い感じを受けたので、その点も安心できれば、長く住み続けてもらえるまちになると感じている。

森本委員 学研都市となると新しい地域の話に偏りがちである。商工会としても事業に取り組んでいるが、旧村や昔からの企業、その住民と学研都市がコラボする機会を創り、精華町を一体と捉えてまちづくりを進めることができれば、一層魅力を発信できる。

私は消防団にも在籍しているが、人がなかなか集まってこない状況がある。消防団に限らず、まちづくりは人がいなければ前へ進まない。住民参加型の人材育成も含めた10年間の総合計画になれば、一人の住民として楽しみができたり、精華町に魅力を感じたり、愛着が湧くのではないかと考えている。

綿崎委員 精華町には42自治会があり、小学校は5校、中学校は3校ある。最近、全国的に災害が非常に多いと感じているが、精華町の場合は東と西で高低差があり、木津川に沿って存在する旧村は土地が低く、水害の発生が懸念される。災害を未然に防ぐ、災害に強いまちづくりを目指す必要がある。

もう1点は、精華町には表に出ていない観光資源が多いと感じており、観光の魅力発信に注力し、来訪者を増やすことを計画に盛り込めればと考えている。

川勝会長 総合計画は、差し当たっては10年後の精華町の姿を考えることになるが、さらにその先のまちの未来を見据えた議論が必要になると思う。前回の総括があつて、次の総合計画をどう描いていくのかという考えと同様に、今回の総合計画が一つの礎になって、その先にも反映されていくことになる。10年後あるいはその先の20年後も見据えながら、それぞれの立場から意見をいただければと思うので、よろしく願いたい。

事務局 次回の審議会は、12月頃に予定している。改めて連絡させていただく。

5. その他

○事務局から報酬及び費用弁償についての事務連絡。

6. 閉会